指定障害者支援施設
国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局
別府重度障害者センター

センターだより

Vol.103
発行 令和7年8月

お疲れ様！！

目次

●頚髄損傷者に対する支援の充実に向けて …… 1
●第20回大分県障がい者スポーツ大会 …… 2
●蛍の交歓会 …… 3
●熱中症に注意!! …… 4
●終了された方の今 …… 5～6
●防災訓練（スロープ通行訓練） …… 6
●座薬挿入器の紹介 …… 7
●職員の異動、転入・新規採用職員からのひとこと …… 8
●終了者の状況、別府重度障害者センターYouTubeチャンネル …… 裏表紙

頚髄損傷者等の自立を支援します

頚髄損傷者に対する支援の充実に向けて

別府重度障害者センター所長　下山　敬寛

残暑お見舞い申し上げます。今年の別府も本当に暑い夏になりました。皆さまは、いかがお過ごしでしょうか。別府重度障害者センターでは昨年度宿舎の空調設備工事を行い、暑い夏もより快適に過ごしていただけるようになりました。

さて別府重度障害者センターでは第4期中期目標（令和7年4月から5年間）に「頚髄損傷者に対する支援の充実」を掲げ、具体的に以下について取り組みます。

『頚髄損傷者が抱える多様な就労ニーズに対応する中で、就労支援の充実に向けて取り組み、頚髄損傷者の就労に関する情報発信を行う』

令和2年から別府重度障害者センターでは就労移行支援サービスを開始しました。徐々に利用者も増え、在宅でのオンライン訓練の実施など、個々の利用者に応じた柔軟なサービス提供にも取り組んでいます。また、これまで就労移行支援サービスを受けた利用者全員が一般就労するなどサービス提供の成果もあがっています。

第4期中期目標では、特に介護を要する頚髄損傷者の個々のニーズに応じて、在宅就労や時短勤務といった多様な働き方の可能性を探ります。そして「その方が安定して長く働けること」を目標にさらなる就労支援の充実を図っていきます。また、これまでも「センターだより」などで就労した利用者のインタビューなどを掲載していますが、頚髄損傷者の様々な就労についても引き続き情報発信していきます。

『地域の病院や支援者に対する研修会等の開催及び専門職員の派遣等を通して、地域連携におけるニーズの把握及び支援体制の検証を行う』

昨年の「頚髄損傷者に対するリハビリテーション研修会」では「つながる支援～安定した在宅生活を送るために～」をテーマにオンデマンドで開催しましたが、多くの専門職の方々にご視聴いただけたことから、専門職の方々が頚髄損傷者の支援について高い関心があること、また一方で開催後のアンケート結果から頚髄損傷者の支援にあたり不安をお持ちであることも分かりました。

第4期中期目標では、別府重度障害者センターがこれまで長年培ってきた頚髄損傷者に対するリハビリテーションのノウハウを普及させるため、病院等への講師派遣や研修会の開催などに取り組みます。また地域の専門職の方々の地域連携におけるニーズを把握し、頚髄損傷者が安定した在宅生活を送るための支援体制の検証を行うことで、さらなる頚髄損傷者の支援の充実を目指していきます。

今年度は別府重度障害者センターを会場とした「頚髄損傷者に対するリハビリテーション研修会」も企画しております。セラピストの方を対象とした研修会になりますが、参加者の皆さんから地域の実情なども含めた地域連携におけるニーズを直接お聞きし、頚髄損傷者の支援の充実につなげていきたいと考えています。

第20回大分県障がい者スポーツ大会

医務課　運動療法士長　木畑　聡

令和7年5月17日（土）、クラサスドーム大分（大分市）で開催された第20回大分県障害者スポーツ大会の陸上競技とフライングディスク競技に利用者7名が参加しました。

昨年は好天に恵まれたこの大会。今年は開催日10日前から雨予報。例年であれば雨が降っても大会会場は開閉式の屋根がついているので大きな問題にはなりません。ところが今年は、その屋根が故障中で閉まらないのです。頚髄損傷の方にとっては大問題です。大会前夜、1時間ごとに確認していた天気予報に大きな変化が…「明日の天気予報が晴れに！」。当日朝は雨が残ったものの午後から晴れる予報で参加を決断。参加者の中から「自分が晴れ男だからな」などの声も聞かれるくらい、天気が持ち直すことを心待ちにしていたようです。

大会前にはスポーツ訓練の時間やセレクティブワークの時間を活用して練習に取り組み、準備をしてきました。種目は５０m走・１００m走・スラローム・ビーンバック投げ、そしてなんと20年振りにフライングディスク競技にも1名が参加しました。フライングディスクは、距離を競うディスタンスや正確さを競うディスリート５などの種目があります。

10時に競技開始して15時過ぎまでお昼を挟んで各々競技を楽しまれました。同行した実習生や引率以外で来られた職員の方の大きな声援も参加者の皆さんの力になったようです。真剣に競技に取り組む姿とともに表彰の場面ではよい笑顔も見ることができました。

競技結果を振り返ってみると、熱心に練習されていた方の中にはしっかりと力を出せた方もいました。競技は一発勝負です。緊張感もある中で、納得の行く結果を出すには繰り返しの練習に勝るものはないですね。運動上達の基本を改めて感じたところです。

競技会ですが、1日屋外で過ごす良い体験にもなります。会場にはキッチンカーも出店しており普段とは違った雰囲気を楽しむこともできますよ。

参加された皆さん、お疲れ様でした。例年になく多くの方が参加を希望されていたので、天気が回復して本当によかったです。来年もまた、多くの皆さんの参加をお待ちしています。

蛍の交歓会

支援課　生活支援専門職　濵野　清悟

6月5日（木）、竹田市立南部小学校と当センターの交流会、『蛍の交歓会』が行われ、利用者の代表2名とセンター所長、担当職員が南部小学校を訪問し、児童のみなさんと交流しました。

児童のみなさんの発表では、竹田市内のおすすめスポットの紹介や合唱を披露していただきました。研究や練習に真剣に取り組んだことが良く分かる素晴らしい内容で、訪問した利用者、職員、オンラインで当センター会議室から拝見していた利用者も胸がいっぱいになりました。また、南部小学校の卒業生であるお父さん、お母さんから聞いた交歓会の思い出も発表していただきました。長い交流の歴史を実感することができて、本当に嬉しく思いました。

当センター利用者からは、日々の生活や障害についての説明や、将来の夢についての話を児童のみなさんに聞いてもらいました。障害に関係なく、夢を実現させるために頑張っている利用者の話が、児童のみなさんの心にも響いたと思います。

素晴らしい交歓会になったことを、児童のみなさんはもちろん、南部小学校の教職員、PTA、竹田ロータリークラブ、教育委員会の方々に感謝いたします。

熱中症に注意！！

医務課　副看護師長　後藤　裕子

熱中症とは、高温多湿な環境下で、発汗による体温調節が、上手く働かなくなり、体内に熱がこもった状態をさします。屋外だけでなく室内で何もしていない時でも発症し、場合によっては死亡することもあります。熱中症について正しい知識を身につけ、体調の変化に気をつけるとともに、周囲にも気を配り、熱中症による健康被害を防ぎましょう。熱中症は、めまい・立ちくらみ・手足のしびれ・頭痛・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感・いつもと様子が違うような症状があります。重症になると、返事がおかしくなり意識消失・けいれんなどがおきます。

熱中症を防ぐためには、それぞれの場所に応じた対策を取ることが重要です。屋内では、室温をこまめに確認しながら、エアコン等で温度を調節します。屋外では、日傘や帽子を着用し、日陰を利用し、こまめに休憩を取りましょう。暑い日の外出は、できるだけ控えましょう。また、通気性のよい、吸湿性・速乾性のある衣服を着用しましょう。外出から帰ったら、冷たいタオル・アイスノン等で身体を冷やしましょう。室内でも、屋外でも、喉の渇きを感じなくても、こまめに水分補給しましょう。

頚髄損傷や高位胸髄損傷の方の場合、麻痺部分の汗が出ない為に身体の熱が放出されなくなり、体内に熱がこもります。(「うつ熱」といいます。)　また暑さや水分不足に対する感覚機能や体の調整機能も低下しているので、注意が必要です。温度の変化に影響されやすいことを自覚して暑い夏を健康に過ごしましょう。

終了された方の今

支援課　主任就労支援専門職　中山　修司

令和２年１０月から開始した当センターの就労移行支援は、令和７年６月末現在で9名の方が終了し、それぞれに活躍されています。今回は、就職と同時に単身生活を開始した方をご紹介します。

Sさんは学生時代にスポーツ事故で受傷し、当センターの自立訓練を利用後はご自宅で家族と一緒に生活していました。当センターで就労移行支援が開始されたことから、久しぶりに当センターの利用開始となりました。

利用を開始した当初は、ご家族と一緒に地元で生活を送りながら、就職あるいは在宅就労を希望されていたSさんですが、在籍中に別府市内の企業での実習を受け、さまざまな求人票を見ているうちに、親元を離れて就職するのも選択肢の一つかもしれないと思い始めました。また、在籍中は数年ぶりに大分国際車いすマラソンにも参加し、ブランクを感じさせない走りで見事、銀メダルを獲得。続く昨年の大会では惜しくもメダルには届きませんでしたが、それでも練習の成果から、安定感のある走りで完走したことが、大きな自信につながったようです。この経験から、練習を継続できる環境に身を置きたいと考えたことも大きな要因となりました。

大会でひたむきにゴールを目指すSさん

就労移行支援では、プログラミングの勉強なども行いましたが、Sさんとしては安定して長く働けるのは事務職の方が良いだろうとの考えから、就職活動もそれに絞って行った結果、別府市内の企業への内定につながりました。

入浴台が設置され、説明を受けています

Sさんはこれまでに１人暮らしをしたことがありません。生活環境を整えるため、職場の近くで物件を決め、サービス調整を行いました。そのままでは生活ができないため、担当OTとともに、本人の身体状況に合わせた福祉用具の選定・制度利用申請を行い、また、動作がしやすくなるよう環境設定を行いました。

環境が整った後に、センターで練習した動作を新しい環境でもできるかどうか、動作の確認を行いました。

さらに、担当の看護師と介護福祉士から、地域の支援事業所（訪問看護、ヘルパーステーション）の方に本人の支援内容や配慮事項について引継ぎを行いました。就労を長く続けるためには、安定した生活が必要です。地域の支援者に本人の状況をしっかりと把握してもらい、本人が安心して在宅生活を送れるように整えて行きます。

ご両親と一緒に過ごした自宅とも、センターとも異なる環境で、安定したリズムを整えていく土台部分ができました。

本人への介助内容を説明しています

その後、ご家族の協力も得て、家電等を整え、１人暮らしを開始しました。

一定期間、新居で生活してリズムを整え、勤務開始日を迎えています。初めての就職と１人暮らしで、不安に思うことも多かったようですが、ご両親をはじめ、多くの方の応援を経て、新生活のスタートを切ることができたSさん。持ち前の努力を惜しまぬ姿勢で、どんな課題でもこなしていくことができると思いますよ。これからのご活躍に期待しています。

防災訓練（スロープ通行訓練）

支援課　就労支援員　渡邉　喜美久

当センターでは、防災訓練を毎年実施しています。今年は8回の実施が予定されており、内容は毎回異なります。今回は5月に実施されたスロープ通行訓練の紹介を行います。スロープ通行訓練の目的は大まかに2つあります。1つ目は、利用者がセンターのどこに、どの程度の斜度のスロープがあるかを知り、緊急時に慌てずに行動できるようにすること。2つ目は、施設職員が利用者の状況に応じた介助量を知り、また、危険箇所などの確認や発見をするためです。

そのため、利用者及び職員で、当センターの非常口を確認し、スロープ箇所を通行しました。また、利用者の状態に応じて介助を行いました。スロープの傾斜角度や非常口の開け閉めなど確認を行い、利用者、職員共に災害時に安全に避難できるように、防災意識を高めました。

スロープを下っている様子

座薬挿入器の紹介

医務課 作業療法士　佐藤 裕也

担当するA氏の排便訓練を進める中で「とある課題」に直面しました。

A氏は洋式トイレに自身で移乗し、着座姿勢で大腿の隙間から座薬挿入器を潜り込ませて座薬挿入するのですが、センターで提供している座薬挿入器（以下、従来式）では、睾丸や大腿へのわずかな接触、感覚が薄い肛門部探索を行う際の皮膚への引っ掛かりによって座薬が頻回に落ちてしまうのです。また、座薬の挿入が浅い（芯棒が短い）ために、挿入後の反射による座薬の排出が課題となっていました。

このため、解決の糸口は以下であると考えました。

【A氏における座薬挿入器の解決すべき課題】
- わずかな接触で反応する挿入器自体の構造
- 挿入後の露出が浅い芯棒

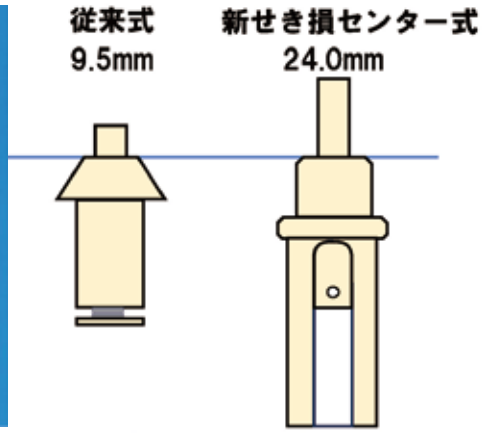
【考えうる解決方法】
- 座薬挿入器のワンオフ作製（従来式から形状・芯棒露出を改善させたもの）
- その他の代替的用具の採用

課題を解決するにあたり、従来式を製造いただいていた業者へ連絡を行い、ワンオフ作製の相談を開始。並行して、代替品探しをインターネットや文献を検索する中で、せき損センターで開発された座薬挿入器（以下、新せき損センター式）[1]にたどり着きました。A氏の課題解決の候補になりうると分かり、情報提供を実施。解決が見込める、とご理解をいただき導入をおこないました。

実際の排便時に試してみると、座薬差し込み時には独自のリブ加工により、座薬を切削することで座薬の保持能力が向上し、軽微な外力による落下が明確に減少。また、芯棒の露出長が約15mm程度長くなったことにより、深部に挿入が可能となり、早期排出の発生を低減することができました。

今回、新せき損センター式の座薬挿入器の導入は新しい取り組みとなりましたが、良好な結果が得られたとともに従来式の挿入器についてもリデザインを検討することの必要性を感じる良い機会となりました。今後も広く情報収集に努め、利用者に最適な用具の提案と、多くの選択肢の提示ができるよう、最新情報に触れていきたいと思います。

参考文献より引用



[1]片本隆二（2016）.頚髄損傷者のための落下防止付き坐薬挿入器の開発,日本デザイン学会　第63回研究発表大会,

職　員　の　異　動

令和６年１１月１日付

〇新規採用　医務課看護師（任期付）　平山　遥

令和６年１１月３０日付

〇退職　庶務課主査　白石　朱音

令和７年３月３１日付

〇定年退職　支援課主任生活支援専門職　有馬　昭郎

令和７年４月１日付

〇転入　支援課生活支援員　小原　有賀（国立障害者リハビリテーションセンターより）

〇転出　支援課生活支援専門職　吉川　杏美（国立障害者リハビリテーションセンターへ）

〇内部異動　支援課長（併）主任生活支援専門職　山下　庄二
医務課介護福祉士長　東　豊能
医務課主任介護福祉士　安部　理恵

転入・新規採用職員からのひとこと

小原　有賀（支援課生活支援員）

国立障害者リハビリテーションセンターから転入しました。瀬戸内海で育ったため、海が見える街での生活は落ち着きます。環境を新たに知識も経験も積み重ねていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

平山　遥（医務課看護師）

11月入職の平山です。以前は急性期の病院に勤めていました。慣れるまで時間がかかると思いますが、これまでの経験を活かして頑張ります。別府に住んで10年以上になりますが、運転が苦手で出不精のため詳しくはありません。任期満了までよろしくお願いいたします。

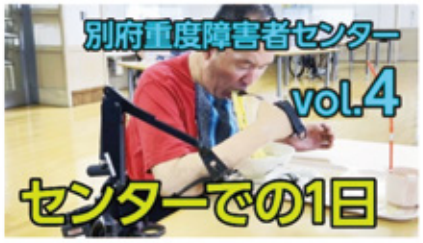
終了者の状況

（令和７年１月１日～令和７年６月３０日）

復帰形態	家庭復帰	就職	自営・内職	復職	就労移行支援	就労支援施設・能開校	他施設	進学復学	その他	計
人　数	8	2	0	0	1	0	2	0	0	13
比率(%)	62	15	0	0	8	0	15	0	0	100

別府重度障害者センターYouTubeチャンネル

別府重度障害者センターを紹介する動画を公開中です。併せて、令和3年度と6年度にオンデマンドで開催した頚損リハ研修会動画も一部公開しています。ぜひ、ご覧ください！



X（旧Twitter）もはじめました。
イベントやお役立ち情報を配信中！

別府重度

別府重度障害者センター公式X

役立つ情報満載！
HPもご覧下さい

別府重度　検索

https://www.rehab.go.jp/beppu/

電話（0977）21－0182（利用相談）　FAX（0977）21－2794

発　行　　別府重度障害者センター